

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム『おお空』
（ユニット名）	満天
所在地 （県・市町村名）	長崎市かき道一丁目二十九番八号
記入者名 （管理者）	寺 尾 司
記入日	平成 20 年 8 月 19 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いっしょに いつも いつまでも 喜びも悲しみも入居者と共に、居心地のよい地域の関わりの中で安心して暮らせる環境で、いつも一緒に付き添いながら、末永く暖かく見守り暮らししていく理念の基	○	今回職員全員に理念の意識付けをし理念の意味を確認した。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の表示を玄関、フロアの見やすい場所に掲げ、職員の意識付けし(1)に記載の理念の精神にのっとり職員は実践している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	改めて地域・ご家族に理念の啓発はしていないが理念の精神に基づく対応の取り組みは各職員徹底し努力している、それを理解して頂けるように今後もいっそう質の向上をめざし努力に努める。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接した建物があまりなく地域の関わりのある人達、出入りの業者さんなどに、声かけて頂いたりし地域の催し物には、なるべく参加し孤立しないような働きはしています。	○	最近では地域のボランティアのホームへの慰問も参加協力して頂いてます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の際には極力、支援参加する方向で、またホームでの行事には地域の方々に参加協力をお願いし、また、ホームにお招きしたり、日頃より開かれたホームとして地域との関わりを大切にしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に対する関わりは地元の婦人会の踊りでの慰問・町内の保育園から園児の慰問・中学生の職場体験の受け入れなど取り組んでいます、ホーム側からの活動は、入居者・職員代表での年2回程の清掃活動など地元主催の催し物・会合には積極的に参加し協力してます。	○	毎年4月の第一週の日曜に行う、かき道地区の大石祭り(清掃活動)6月に行われるペーロン大会の応援他、市民大清掃・近隣の夏祭り・矢上くんちなど参加協力しています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価はホームの質の向上にむけ大きく関わる問題と認識し職員全員で取り組む努力し、改善策は早急に対策を協議してます。	○	職員全員で指摘事項の改善に向けて他、業務のうえでの職員間の共有意識の統一を図り話し合いました。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での結果報告は早急に全職員に結果報告してます会議での構成員の指摘事項の検討は職員会議にて検討し対策を講じてます尚、会議の内容・職員の協議の内容はすべて運営推進会議の議事録に閉じてます。	○	利用者・構成員の指摘事項は早急に常勤者会議・フロア会議で、話し合い対応策講じ結果報告は全職員にすべて報告してます、次回の運営推進者会議にて結果報告し協議してホームの活動・運営に活かしてます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	改善事項の案件ですが市の担当職員に今後は積極的に指導要項など不明点など相談し機会を設け推進会議の参加を呼びかけるなどホームとの関わりを強くしていきたい。	○	今後は市の担当職員に指導を含め連携を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に対しての相談は受けたことがないのですが、今後は推進会議・家族会・職員会議など機会を設け、取り上げ支援体制が対応できるように取り組んでいきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・虐待・暴言など職員全体で敏感に対応するなど入居者等の体の変化に対しては業務の記録に記載し全職員で早急に、見過ごされないように対応策を講じてます。	○	原因不明の打ち身・内出血の後・利用者等の様子の変化など職員間で注意を払い観察経過を早急に院長報告・ご家族への報告をし、職員で原因の究明を話し合い解決に努力してます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時での説明は説明漏れが内容すべてに文章化していますが、それでも疑問・質問など分かりにくい点など納得されるまで時間を設け何度でも説明しています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では入居者の方にも初回より参加して頂き、日頃の感じてることなど率直な意見を頂いてます、職員は指摘事項・助言を真摯に受け止め対応策を講じるように話し合います。議事録記載	○	自己評価8での対応となりますが日頃の利用者等の声を反映する細かい配慮を必要と感じてます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者・ご家族・と職員は馴れ合いにならないようにし、毎月の決算と、日頃の暮らしぶりなど面会時に報告し、以外にもケアマネによる最近の体調の変化などケアプランをもって子細に、ご報告しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年8月、家族会を開き質疑応答の時間を設け、ご家族の日頃の考えを聞きました、全体会議での質疑応答は少なかったが、懇親会における個別な意見はご家族より、かなり多くの意見がありました、ホームに反映させたいと思いました。	○	ご家族に今後は意見・苦情・不満など安心して言える機会を設ける体制作りを努力していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的には一ヶ月に一度の常勤者会議とフロアスタッフでの会議を開き現場の声を聞き運営に反映してます。全体会議での開催が少ないのが、気になるが今後は機会を設けたい。	○	ホーム内研修にて職員の質の向上に努力し、職員間でのコミュニケーションをとり、情報の共有し意志の統一を図っていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整に関しては職員の急病など、緊急時での対応は1F・2F連携を取り合い職員の協力体制は必要の時間帯など、お互い協力しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新設当時は職員の出入りも頻回でしたが最近は落ち着いております極力、入居者等の不穏を仰ぐ移動など、やむを得ない場合を除き、控えさせて頂いてます。	○	過去2名、利用者の配慮を優先し業務の支障と判断しやむを得ず配置転換を行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上に関わる研修会・勉強会など各職員に積極的に職員・パート職員問わず技術・知識の習得に向けて、向上心をもって仕事に反映するように進めている、また運営者からは協力して頂き。研修報告会も発表して頂く方向にしております。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・情報の交換を今後どのようにして行くか関係者と検討中ですが将来は東長崎地区の八グループあるホームとの連携を段階的に推し進めて、いきたいと思っております。	○	今年5月 近隣の公園で入居者・職員を交えての、交流をしました。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員へのストレス軽減策の対応と環境作りは、休憩時間の確保と連続勤務がストレスとなることから、シフトへの配慮及び職員の抱えているストレスを理解し解決する努力はしている今後は職員主体によるストレス解消の場を設けることを取り組んでいきたい。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の質の向上も大切だがそれを評価し仕事に反映する環境作りは、運営者の理解もあり環境も整ってきている今後は職員の取り組む姿勢、努力も必要。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	創設して3年経ち当初は環境の変化による不安もありましたが現在は落ち着いてきましたが認知症の進行も進まれた方もおられ様々な症状もあり、日頃より職員には受容と傾聴をもって取り組むよう指導してます。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームでのご家族に対する方針は日頃の暮らしぶりの様子・体調面の変化など面会時に報告することにより、ご家族より悩み・相談など聞き逃さないように努めてます。それ以外にも体の不調はもちろん職員の生活面の気づきなど包み隠さず報告・連絡をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各ご家族それぞれ入居者の思いが、あり、できること、できないこと、これからのことなどを一緒に話し合い本人の意志を大切にしながらサービスの提供をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者へのサービスの提供は本人の体調面・精神的な面などに配慮しレクリエーションなど本人の意志を汲み取り無理強いはいしませんサービスの中止・継続はご家族・関係者・主治医・スタッフなど話し合い本人の意志を尊重してます。	○	定期的な電気治療(リハビリ)など、ご本人の体調・精神的な面を配慮し通院をしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさを大事にし、入居者が日々の暮らしのなかで認知的な面を含めどのように変化しているのかを絶えず職員は気づいて対応して、入居者等の自尊心と敬愛する気持ちを常に職員は忘れないように勤めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援は入居者の日頃の暮らしぶりを正確に報告することでご家族も安心され、心配で相談も助言も頂きます、常に利用者・ご家族・スタッフは三者が支え合う対等な関係です。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠に対するご家族の連絡は体調の変化・日頃の暮らしで関わる、様々な出来事を連絡し、また居室金の入金の際にケアプランにて説明しホームとして暖かく迎えられ、家族的な雰囲気作りに、努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者等の今までの生活してきた背景・その人らしい性格・を把握したうえでの援助は体力が衰えても、その場に行かなくても本人のお話を聞いたり昔話をふり返ることで支援してます、体力的に自身ある方は今の気持ちに添う援助を支援しています。	○	以前は週に一度、楽しみにしていた碁をうちに会所にお連れしてましたが体力的に対応できずテレビ視聴の囲碁対応になりました一人一人の馴染みの場所が異なる為、今後個別の対応も考えていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者等のそれぞれの性格を把握したうえで本人に負担をかけないように、生活のなかで役割の分担を決め、席の配置など入居者同士、相性の良い組み合わせになるよう配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者等のサービスの打ち切りの配慮はご家族・関係者などの話し合いで本人の体力的衰えを考慮し、慎重に段階的に他のサービスで補える方向で本人の意志を大切にし、検討しています。	○	リハビリ通院の利用者が体力的な衰えで御家族・関係者と相談し訪問サービスでの検討し対応してます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が生活するうえで居心地の良い環境・過ごしかたなど、それぞれの生活のスタイルは本人の希望を尊重し、体力的な衰えの維持・向上に向けて、スタッフで努力し、話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者等の生活背景には生活習慣・職業柄・様々の人生経験などその時代での思いや、苦勞された経験など考慮し、一括制のサービスに、ならないように各利用者の性格・考え方を把握し個別的なサービスも対応してる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	単調な生活にならないように、心身の状態を加味して本人の意志を尊重し、疲れない程度に生活の中に運動・頭の体操などスタッフと考え取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の暮らしにとって体力の維持・向上にむけ、その人らしい生き方を職員は常に工夫をしながら見守り、気づいた点があれば、ご家族の意向を参考にし職員全員で取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状況の変化は定期的なケアプランの見直しをもってスタッフと共有的情報の統一を図り、ケアしてますが、事故・及び急激な心身の衰えの対策は、常に御家族に報告と関係者等の調整を図り、スタッフ間の情報の収集に努め現状に即した対策を講じています。	○	ケアカンファランスは定期的に職員と行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々での業務記録は形式的な観察記録にならないように本人に関わる、わずかな変化に注意を払い記録してます、申し送りにも、気づいた点があれば、情報を共有し、業務に活かしてます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が暮らしていくうえでの、関連病院による定期的な受診、体力の維持向上を目的とするリハビリでの通院対応の他、ご家族の意向に添う外出・外泊・緊急時入院の対応の調整など柔軟な支援体制に配慮してます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域での関連施設の利用状況としまして近隣のふれあいセンターの広場の利用・自治会協力での近くのゲートボール場の公園利用・地元の婦人会のボランティア活動など協力は頂いてますが、利用者等の体調的な面を考慮しながら活動または利用したい。	○	地域の結びつきも徐々にですが協力支援する方達との関わりも、増えてきてます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今後、体力の衰えによる外出の制限、活動範囲での限られた利用者等の体調面を考慮すると、出張による理容院の協力は得られたいが、それ以外での出張によるサービス、例えば専門の音楽療法士などの検討は今後、考えていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での包括支援センター員の協力は定期的な話し合いにて連絡は取り合ってます、それ以外にも施設の行事・運営など分からない事があれば相談もしてます、関係は良好にて権利擁護の問題など今後、機会があれば相談したい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームは外科系医療法人にて週2回定期の往診をしていますが、ご家族の意向も踏まえ専門外での関連病院での対応も情報の共有を交換し受診して頂いてます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門的困難な対応をとらざる得ないときは、運営者・職員で協議し本人・ご家族の意向も配慮し、話し合って専門医での受診・往診の対応をしています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常駐する看護師が日頃の体調管理・体調の変化による本人の訴え・職員の気づき・事故での対応など緊急時での連絡体制は主治医にすぐに連絡してます。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による環境の変化に対し本人の不安解消に向けて、ご家族・関係機関・主治医・スタッフなど協議し入院時は看護師を同行し、長期入院には退院時での混乱を避けるためにも見舞いに行くようにしてます退院時も受け入れ体制に戸惑いのないよう配慮している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームの方針は看取りケアをもって運営する理事長の考えで終末時ご家族の意向を踏まえ、主治医との話し合いをすることにより、入院・看取りケアを決定する方針です、尚看取りケアの方針の同意書は契約時にとらせて頂いています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の課題として終末医療に対しての介護職員の役目・心がまえ、など今後、検討していかなければならない重要課題だと思います。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームより別のところに移り住む利用者等の方は過去、2～3名おられましたが、ご家族の意向など十分検討し誠意をもって退室における情報の報告し、利用者等のみなさんとお別れの際にも配慮に努めます。	○	自宅介護による退室1名・入院退室1名・受け入れ困難1名でした混乱はありませんでした。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つける言葉掛け、不適切な記録など職員間で注意しあい馴れ馴れしい職員の態度・利用者等の呼び方・個人情報におけるプライバシーの配慮など常に注意を払ってます。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者等の希望が表現力に乏しくとも、本人の顔色の表情で判断、疲れての拒否なのか、遠慮からくる拒否なのか日々の暮らしの表情を職員は把握し見逃さないようにし、または個別による支援をしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり日々の暮らしでの行動を職員は把握し、日頃と異なる不穏行動には話を聞いたり、本人がリラックスできる状況の雰囲気を作るように心がけ職員は支援してます	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合わせての洋服の組み合わせなど利用者が以前、活発に過ごされていた、ご家族の意向を参考に外出時での洋服・髪型など本人の意志を確認して配慮しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を通しての環境作りは食事前の、トイレの誘導・手洗い・嚥下体操など流れが一辺倒になりがちで、利用者の中には食事前の「おしぼり」の準備、料理の、もりつけをしてくださる方もいて、「いただきまーす」の挨拶も毎日、利用者によって変わって、して頂いてます。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品の取り入れは以前は、お酒をたしなむ方もおられたが、(今は味が濃い・うすい)(量の多い・少ない)材料の刻み加減など配慮してますが今後は嗜好調査を行い、きめの細かい献立も考えていきたい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一日の水分量を目安に排泄パターンを把握し時間置きのトイレ誘導トイレの声かけ、を職員全員で対応し体力の衰えによる居室でのP-トイレの使用をなるべく避けトイレに行かれることで生活のリズムを崩さないように配慮してます、オムツでの対応は本人の意向を踏まえ慎重に考え安易に考えてません。	○	水分量チェック項目を排泄チェック表に設け水分量の目安にて、排泄パターンが読み取れ、体調の変化・脱水など利用者の体調面に役立ってます、昨年の外部評価の改善事項でした。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の利用方法は毎日希望する方は入浴されても結構ですが、むしろ入りたくない方に対して気持ちよく入るための配慮は午前中入りたい・一番風呂が良い・気分的今日は？・・・入りたくない気分など体調的な判断などの考慮は必要と思います。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠に対する利用者等の関係は体調の変化・不穏・高揚感・昼夜逆転・生活習慣・と様々です体調を崩された方には、当然、昼間の睡眠も大事で、不穏時での不眠には夜間は徘徊もあり注意・見守りなどケースによって傾聴・入眠導入剤・暖かい飲み物と工夫はしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者等の生活歴・職業柄・その人らしさを活かしたホームでの関わり方など職員がその方の得意な面を取り上げる事で本人が生き生きと輝き持ち場、持ち場で生活に、とけ込むように職員は支援をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方にはお金に敏感で混乱も妄想的に繰替えされる方もおられます、少額な所持金はご家族の相談のうえ本人に管理して頂いてますが高額な金額はトラブルの原因となり預かり金として金庫に保管させて頂いてます。ご自分の財布からお金を支払う機会を設けたい。	○	御自分で管理できる人はいいいのですが、利用者への所持金のトラブルは職員かなりサポートするのですが、盗られ妄想・金銭のやり取り・紛失・お金が原因でおこる不穏など注意が必要です。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換は外出でのドライブ・買い物・近くの公園の散歩・受診の際の外出・催し物など行かれる機会は、以前は多くありましたが認知的な進行と体力的な面を考えると今後の対応として外出にたよらない気分転換の方法を考えていきたい。	○	相反する意見になりますが外出の工夫は必要ですが、体調面の配慮など考えてますと、今後利用者等の高齢的な体力の衰えを考慮すると外出しなくても良い気分転換の工夫も考えていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別支援のなかで本人が今したいこと、今行ってみたいところなど、今しかできないことなど、個別対応は今後考えて行きたい。ご家族にも支援協力もお願いしていきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に対する利用者等のお祝いのお礼の電話、贈り物へのお礼の電話への取り次ぎなど場所を配慮しお話しをして頂いてます遠方のお友達へのお手紙のやり取りの支援もしてます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者等のご親戚・お友達・知人・など受け入れ態勢の前に、玄関先にて関係を確認かめご本人の許可を得て通しますが、入居者のご家族の意向もあって友人・知人・馴染みの人達の関係者など、ご家族の事情に配慮し断らせて頂くこともあります。	○	総ての御家族ではなく、昔の方が、御家族の許可なしに面会に来られる事で、ご家族・本人に混乱が生じる事もあり、御家族の意向に配慮し面会を、事情を説明し断る事もあります。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する職員の指導は言葉の拘束を含め身体拘束は一切、認めてません自傷行為・他傷行為にて暴力行為には運営者に報告後ご家族との相談にて必要な対応を講じてます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームには利用者の中に不穏時での徘徊による帰宅願望の方が数名おられ、玄関を出られると道路脇にて頻繁な車の往来が激しくまた近くには川・海もあり非常に危険です利用者・関係者には大変迷惑ですがご理解をお願いしています。将来的には施錠の開放を考えて行きたいと思っています。	○	改善事項の項目の一つですが入居者の安全を優先のする為、今回もチェーンは外せませんでした今後も協議を重ね徘徊される利用者の動きなど見計らい次期を見て検討を続けていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者等のプライバシーの配慮での対応は居室内の出入りは声かけをし、掃除での入室・カーテンの開閉・戸締まりなど本人に許可を得ることになってます、夜勤体制は時間置きの巡回・見守りにて安全の確保に努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・刃物・消毒剤などの身近に置かない管理はしているが今後認知的進行を考えるうえで、異食による危険性を考えると身近な物に対しても考えていきたい。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険防止策の検討として、ひやり・はっとでの報告より転倒・ベッ トより滑落・長風呂による意識の消失・他すべての報告を職員全員で話し合い対策を講じ再発防止に努めている。	○	ひやり・はっと、での職員の取り組みは危険が起こった場合すべて仔細な事でも、ひやり・はっとでの報告書を提出して頂き、院長・御家族に経過を早急に連絡してます、その後、対応策・改善策を職員全員で話し合います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の利用者等の身体に関わる応急処置などの対応は全職員は年1回はホーム内研修での勉強会及び緊急時での対応マニュアルの周知徹底を図っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災防火訓練は年2回定期的に総合訓練・部分訓練など地域管轄の消防署と連携を取り合いながら行っています、今年は地域の消防団と一緒に訓練をしました、夜間緊急時の避難訓練も夜間時の火災を想定し消防の通報訓練と、ご家族・職員などの連絡法を確認しました。	○	2月と10月に定期訓練実施し、それ以外にも職員間同士でも通報訓練・避難訓練など予防訓練を行っています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者等の日頃の様子などを現状の問題点を踏まえたうえ、今後予想されるリスクを、面会の折りケアプランに添って、ケアマネが説明し、現場職員のお話を総合的にまとめ管理者が話す機会を設けてます。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の入居者等の体調の変化は普段の観察より、いつもと違う兆候を確認すると全職員で情報を共有し状況により看護師・急を要するときは直接、職員が主治医に連絡し指示を得てます。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時の誤認防止対策は各職員が服薬時入居者等の名前・曜日・朝・昼・夕の確認後、声をだして、本人に手渡して服薬するのを確認するまでとします尚、各利用者等の薬の成分一覧表はそれぞれの業務カルテに記載していますが今後、職員にホーム内研修にて薬の内容の把握を徹底したい。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃の食事料・水分量と本人の排泄パターンを把握し自然排便をして頂く工夫、お腹のマッサージ・軽い運動・食事による調整など取り組んでますが、最終手段として薬の服用となります、不穩につながるケースも少なくないので、便秘の症状が長く続くようであれば、座薬を使用します。	○	自然排便にて対応し利用者への配慮として摘便は行っていません。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、ご自分で出来る方は生活リハの一環として、洗面台まで行って頂き、習慣性を大切にスタッフ介助での入居者は義歯の手入れ・口腔ケア・入眠時においては消毒を行い清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は各利用者の水分摂取量・食事の量を把握し体調面の変化にそれぞれ対応し食事量の減退時は本人の嗜好を取り入れ少しでも本人の満腹感を満たす努力をしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防処置は感染症マニュアル指導要項にて研修に行かれた職員のホーム内研修にて勉強会を開催してます今後も機会を設けて対応に努めたい。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理及び台所水周りでの衛生管理は新鮮材料での食事を基本とし新鮮魚介類にいたっては、当ホームは熱処理にて献立を考えてます賞味期限・冷凍庫での過信に注意を払い、水まわり・調理器具の消毒は確実にを行う事を指導してます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路の脇にある建物で通行中に気楽に立ち寄るまでは行かないまでも玄関先にお花を生けるなど、玄関に入られても利用者さんが生けられたお花で、お迎えし、家庭的な雰囲気作りを心がけてます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂が兼用で利用者等のご家族が集まる機会を設け、ゆっくりと落ち着いてお話ができる、空間作りとして、ソファの位置に配慮してます。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の脇には畳み作りの和室もあり、新年のお茶会・冬場には、こたつを置けるようにしてあり、昼寝の時に利用される利用者もおられます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での環境作りは利用者等の今迄、使い慣れた、ご本人の持ち物をもって来られ、利用者・ご家族・と職員と相談しながら配置されてます、持込に対しては当ホームは特別制限はありません		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	生活廃水による下水の処理、空調設備による嫌な悪臭は業者での対応でお願いし、トイレなどの臭いは職員での芳香剤にて適切な対応をしています、温度の調整は設定温度を決め、なるべく温度差がないよう気配りをしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内、トイレ、お風呂、視覚になる部分は、手すりを取り付け、転倒危険と思われる利用者には未然につえを一点支持から四点支持に変えるなど身体機能に対応した転倒防止策を講じている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失検討による部屋・トイレの間違いの防止には、居室の入り口に、 のれんを垂らしたり、御自分の気に入られた物をテーブルに置いたり工夫はしていますが、職員での見守りによる利用者の判断ミスの防止も必要		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	今回のご家族会にて屋上スペースの活用をご家族に問いましたところ屋上に入居者が主体となる花壇の希望がありました。今後の努力目標です。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム『おお空』 満天

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

創設3年経過し今後の当ホームの方針としては地域に根ざした地域の関係者によるボランティア活動の参加の呼びかけ・自治会主催の地域交流での関わり・同業者間での、情報交換・勉強会・催し物の開催など地域の人達と一緒にあって関わり合い、助け合う、開かれたホーム作りを、段階的であるが推し進めたい、